

Automation 360™への アップグレード:

Enterprise 10 または 11 からの移行ガイド



Automation 360 へのアップグレード: Enterprise 10 または 11 からの移行ガイド

はじめに.....	3
移行とは?.....	3
移行処理.....	3
このガイドの利用方法.....	4
Automation 360: 最先端のデジタルワークフォース プラットフォーム.....	5
従来の Enterprise プラットフォームと Automation 360 の違い.....	6
前提条件: サポートされている Enterprise 10 または 11 のバージョンの検証.....	7
現在お使いのプラットフォーム バージョンの検証.....	7
サポートされているプラットフォーム バージョンの確認.....	8
ステップ 1: 移行準備状況の確認.....	9
Bot スキャナー.....	9
Bot スキャナー ユーティリティの入手.....	10
Bot スキャナーの実行と Bot の分析.....	11
分析に基づいた移行時期の決定.....	12
ステップ 2: 移行計画と準備.....	15
独自の導入モデルの選択.....	15
Automation 360 移行ライセンスの取得.....	16
環境の準備と Automation 360 Control Room のセットアップ.....	17
追加的な環境考慮事項.....	18
ステップ 3: Bot の移行.....	19
Bot 移行ウィザードで選択した Bot の移行.....	19
移行セッションに必要な手順.....	20
IQ Bot の移行.....	20
Bot Insight の移行.....	20
移行済み Bot のテストと検証.....	21
Bot のアップデート.....	21
Bot ライフサイクル管理.....	22
Bot の変換・検証・移行中に予想されること.....	22
リソース.....	23

はじめに

Automation 360 へのアップグレードプロセスへようこそ。このガイドで説明する推奨移行処理に従えば、Enterprise 10 もしくは 11 のお客様は業界屈指の真に Web ベースでクラウドネイティブな完全統合型デジタルワークフォースプラットフォームのメリットを体験することができます。このガイドは概要を記したものです。お客様の環境に特化した詳細は、docs.automationanywhere.com/category/migrate をご覧ください。

移行とは？

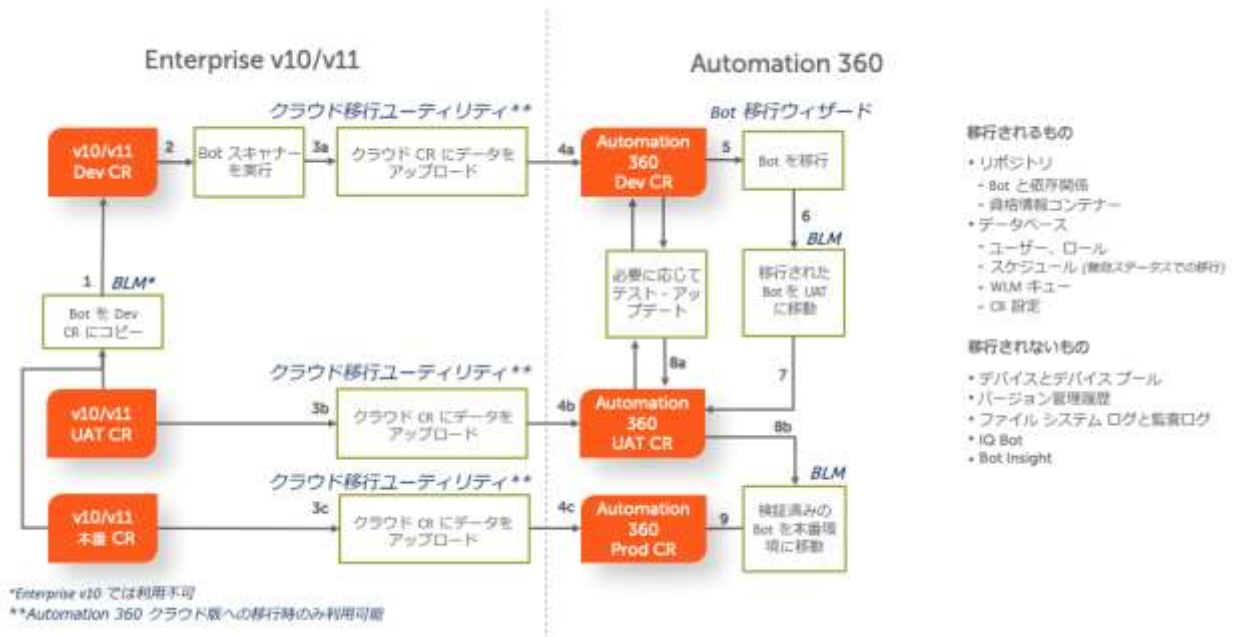
移行とは、Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 から最新の Automation 360 のプラットフォームにアップグレードするプロセスのことです。これには、既存のデータベースやリポジトリの複製、お使いの RPA Bot の新しい Automation 360 でサポートされるフォーマットへの変換、IQ Bot で作成したすべてのラーニングインスタンスの移行、Bot Insight で作成されたダッシュボードの移行などが含まれます。このガイドで説明するステップに従えば、取り揃えられたツールやリソースを使って移行処理を実行できます。

移行処理

Automation 360 へのアップグレードには次の 3 つの主要ステップがあります。



Automation 360 Cloud への移行時の推奨ワークフローは次の通りです。



開発、テスト、本番の各環境の Control Room でクラウド移行ユーティリティを実行すると、Bot、ユーザー、ロール、資格情報、変数、スケジュールなどが移行されます。このガイドには一般的な概要が記されていますが、Automation 360 オンプレミス版への移行ではフローの詳細が異なります。ステップバイステップの手順に関しては、[ドキュメント](#)をご覧ください。[クラウド移行ユーティリティ](#)、[Bot 移行ウィザード](#)、[Bot ライフサイクル管理機能](#)に関しては、当社のドキュメントをご覧ください。Bot ライフサイクル管理は Enterprise 10 ではご利用いただけません。

Bot の数が多い場合は、Automation 360 と並行して Enterprise 10 または 11 を実行することをお勧めします。デュアル環境で実行する場合、導入状況によって手順が異なります。お客様の状況に合ったドキュメントに従うようにしてください。

- [デュアル環境での 11 から Automation 360 オンプレミス版への移行手順](#)
- [デュアル環境での 10 から Automation 360 オンプレミス版への移行手順](#)
- [デュアル環境での 11 から Automation 360 クラウド版への移行手順](#)

このガイドの利用方法

このガイドには、移行準備方法、移行中に予想されること、また移行の実行に必要な技術的詳細の入手先に関する大まかな情報が含まれています。具体的な詳細は[移行ドキュメント](#)をご覧ください。

- 
定義: このドキュメントで言及される「Automation 360 Cloud」もしくは「クラウド」への移行とは、Automation Anywhere Cloud 上でオートメーション・エニウェアによって提供されるクラウド ホスティングと管理を指します。一方、「オンプレミス」という用語は物理的な自社サーバーや自社運用のプライベートまたはパブリックのクラウドをも含む、お客様ご自身のインフラストラクチャを意味します。
- 移行処理:** 3 つの主要ステップは、クラウド アップグレード、オンプレミス アップグレードの両者に適用されます。ただし、このガイドの該当箇所後述する特定の副ステップの実行方法には違いがあります。

Automation 360: 最先端のデジタルワークフォース プラットフォーム

Automation 360 にアップグレードすると、フレキシブルで俊敏性に富んだモダンなアーキテクチャによって構築された、クラウドネイティブの単一統合型デジタルワークフォース プラットフォームにアクセスできます。



単一プラットフォーム

- フロントオフィス、バックオフィスならびに従業員生産性の自動化のための総合プラットフォーム
- エンドツーエンドの自動化の価値サイクル: 発見、キャプチャ、自動化、最適化
- 拡張可能なアーキテクチャと豊かなテクノロジー エコシステム



使いやすさ

- 迅速なセットアップ
- どんなユーザーでも容易に利用できる 100% Web ベースの体験
- シチズンディベロッパーのためのノーコード、ローコードでの Bot 構築
- IT/COE の一元管理と制御



クラウドネイティブ

- クラウドのメリットを活用した、クラウドネイティブなアーキテクチャ
- オンプレミス導入かクラウド導入かは顧客が選択
- オンプレミスでもクラウドでも同様の体験ができる単一コードベース
- 容易で無限のスケラビリティ
- 総所有コストの削減



総合インテリジェンス

- プラットフォーム全体にわたって内蔵された AI と ML
- ドラッグ & ドロップ統合でサードパーティ AI スキルの取り込み
- リアルタイムのダッシュボードによるネイティブな運用インサイトとビジネス インサイト

Automation 360 クラウド版の選択 ビジネスのスピードにかなったイノベーションと拡張



従来の Enterprise プラットフォームと Automation 360 の違い

Automation 360 は、従来の Enterprise プラットフォームの長所を取り出して強化しつつ、フレキシブルでクラウドネイティブなアーキテクチャとクラス最高のテクノロジーを活用して、お客様が最適化、拡張、スケーリングを行えるように、一から構築されたモダンなプラットフォームです。Automation 360 は、従来のプラットフォームの機能をもとにそれらを越えて向上し、拡大し続けます。プラットフォームが完全に再構築されたため、従来の機能の中には統合されたものや、プラットフォームによりよい形で一体化されて必要のなくなったものがあります。



推奨リソース

- [機能比較表](#): 機能ごとの比較表により、Enterprise 11 の機能と Automation 360 の機能の高次元な比較ができます。
- [Automation 360 の使い方](#): Automation Anywhere University が開発した包括的な Automation 360 オンライン コース シリーズで、プラットフォームがどのように機能するかを理解し、ステップバイステップの Bot 構築例を見ることができます。
- [技術的なドキュメント](#): セットアップ、システム要件、設定、機能詳細に関する必要情報は、ドキュメント サイトですべて見つかります。

前提条件: サポートされている Enterprise 10 または 11 のバージョンの検証

Automation 360 へのアップグレードは Enterprise 10 または Enterprise 11 の多くの認定バージョンをサポートしています。Enterprise 10 もしくは 11 の「認定」バージョンとは、特定のプラットフォームバージョンの主な機能性とそのプラットフォームで開発された Bot が Automation 360 でサポートされていることを意味します。今後さらに Enterprise 10 または Enterprise 11 の他のバージョンへのサポートが追加されていきます。Enterprise 10 から Automation 360 クラウド版への移行はサポートされていません。

移行処理を開始する前に、以下の要領でお使いのプラットフォームバージョンがアップグレードのサポート対象であることを確かめてください。

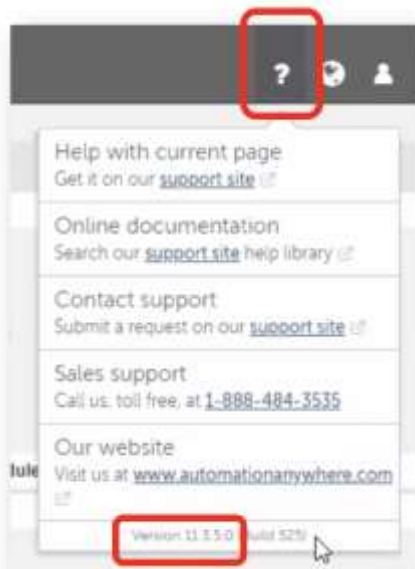
- 現在お使いのプラットフォームのバージョンを検証
- オートメーション・エニウェアのドキュメントポータルで現在サポートされているバージョンを確認

現在お使いのプラットフォームバージョンの検証

Enterprise の Control Room または Client のどちらからでも、現在お使いのプラットフォームバージョン番号を確認できます。

Automation Anywhere Enterprise Control Room からのプラットフォームバージョンの検証

1. Enterprise 11 Control Room にログインします。
2. Control Room の右上隅にある [?] をクリックすると、メニューの一番下にバージョン番号が表示されます。



サポートされているプラットフォームバージョンの確認

自社で導入している Enterprise 10 もしくは 11 のバージョンが検証できたら、移行に向けてサポートされているバージョンを確認します。

1. オートメーション・エニウェア ドキュメント ポータルにアクセスします。
2. 移行サポートのある Enterprise 10 と Enterprise 11 のバージョンが表示されるまで下方へスクロールします。サポート対象バージョンは、クラウド移行・オンプレミス移行のいずれにも適用されます。

サポート リストにお使いのプラットフォームバージョンが見つからない場合
お使いのプラットフォームバージョンがリストに載っていない場合は、最新の認定バージョンのリストを含む、こちらのドキュメント ページをブックマークして、アクセスすることができます。

お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 のバージョンがサポートされていることを確認してから移行処理を開始することが推奨されていますが、Bot スキャナー ユーティリティを実行してどの Bot とそれに対応するコマンドの移行準備が整っているかを特定することは可能です。これにより、現在サポートされていない Bot やコマンドのサポート時期を知ることでアップグレードを計画することができます。



推奨リソース

ドキュメント ポータル: 各環境に特化した手順を含む、Automation 360 へのアップグレードや移行に関する最新情報は、<https://docs.automationanywhere.com/> をご覧ください。

ステップ 1: 移行準備状況の確認




Bot スキャナー

Automation 360 へのアップグレードに進む前に、お使いの Bot の移行準備状況を理解することで、どの Bot をいつ移行するかについて十分な情報に基づいた決定をすることが重要です。Bot スキャナーは、お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Control Room の Bot リポジトリにある Bot (TaskBot と MetaBot) を分析し、移行準備が完了している Bot 数とコマンド数とまだ移行サポートのない Bot 数とコマンド数をまとめたレポートを生成するソフトウェア ユーティリティです。今すぐ移行するべきかについての助言と、サポートされていないコマンドが Automation 360 でサポートされる予定利用可能時期 (ETA) も提供します。

推奨リソース

Bot スキャナーについてのチュートリアル動画: [こちらのチュートリアル動画](#)を見て、Bot スキャナーの利用方法についてのステップバイステップのガイドに従ってください。

 備考: Bot スキャナーは分析専用で、移行は実行しません。

- Bot スキャナーはお使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Bot の内容を読み込み、分析結果の要約レポートを提供します。Bot の移行やその他のアクションは行いません。
- Bot スキャナーを使うのに Automation 360 は必要ありませんが、お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Bot リポジトリへのアクセスは必要要件です。
- この先のステップに進む前に、Bot スキャナーを実行することをお勧めします。

Bot スキャナー ユーティリティの入手

以下のステップに従って、お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Bot をスキャンする準備をします。

1. お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Control Room にある Bot リポジトリをコピーします。
2. Bot スキャナーをダウンロードします。

1. お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Control Room にある Bot リポジトリをコピーします。

- お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Control Room にある Bot リポジトリをコピーし、バックアップを作成します。リポジトリのバックアップコピーは、Bot スキャナー操作時に利用します。
- コピーの保存場所を書き留めます。たとえば、リポジトリが現在 C:\ProgramData\AutomationAnywhere\Server Files\Default\Automation Anywhere\ に保存されている場合、Automation Anywhere フォルダを、C:\My Bots\ などの任意の場所にコピーする必要があります。



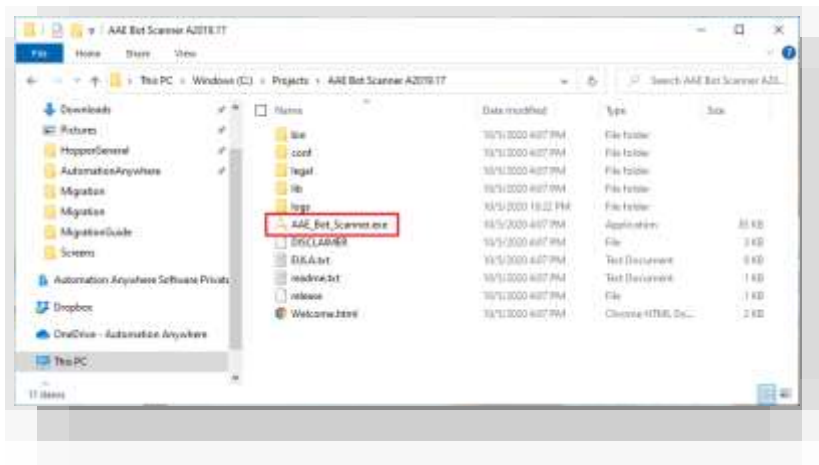
備考: Bot スキャナーの利用時に、Bot リポジトリのバックアップコピーを使用

- 本番環境や Bot に偶発的な障害を起こさないように、バックアップコピーを作成し、そのコピーをすべての移行関連のアクティビティの実行に利用することをお勧めします。

2. Bot スキャナーをダウンロードします。

最新バージョンの Bot スキャナーは、オートメーション・エニウェアのサポートとコミュニティフォーラムのサイト、A-People からご利用になれます。

- オートメーション・エニウェアの A-People [ダウンロード](#) ページにアクセスします。
- 「Automation Anywhere Automation 360」ボックスにある、Automation 360 の最新バージョンのリンクをクリックします。Bot スキャナー ユーティリティなど、Automation 360 関連のさまざまなファイルが表示されます。
- 「AAE_Bot_Scanner」zip ファイルを探し出して、ダウンロードします。
- zip ファイルを任意のフォルダーにコピーし、ダウンロードした zip ファイルからファイルを解凍します。以下は、解凍した zip ファイル画像の一例です。フォルダー内の実行可能な Bot スキャナー ユーティリティに注目してください。





推奨リソース

- Bot スキャナーのダウンロード: [A-People ダウンロード ページ](#)から最新の Bot スキャナーを入手できます。
- Bot スキャナーに関するドキュメント: Bot スキャナーの技術的な情報は[こちらのドキュメント](#)ポータルからご覧になれます。

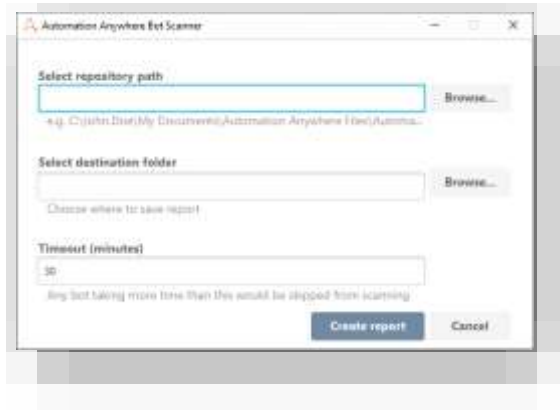
Bot スキャナーの実行と Bot の分析

お使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 の Control Room にある Bot リポジトリのコピーを保存し、Bot スキャナーのダウンロードが完了したら、次のステップに従ってスキャンを実行して結果を取得します。

1. Bot スキャナーを起動して、設定します。
2. Bot スキャナーを実行します。
3. Bot スキャナーの結果要約レポートを確認します。

1. Bot スキャナーを起動して、設定します。

- 解凍した Zip フォルダー内にある AAE_Bot_Scanner.exe ファイルをダブルクリックして、Bot スキャナーの設定ダイアログ ボックスを起動します。
- リポジトリパスの選択: スキャンする Bot リポジトリファイルの場所を入力します。
- 保存先フォルダーの選択: 生成されるレポートの保存先フォルダーの場所を入力します。

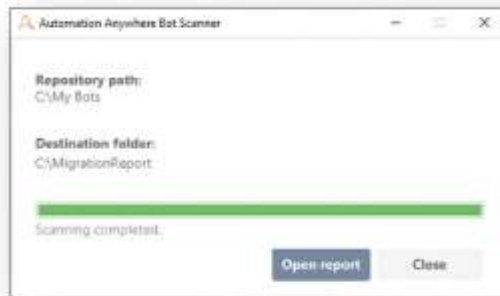


2. Bot スキャナーを実行します。

- [レポートの生成] ボタンをクリックして、リポジトリ フォルダーにある利用可能な Bot を分析します。
- ユーティリティが、リポジトリにある Bot ファイルをサブフォルダーも含めてすべて読み込みます。

3. Bot スキャナーの結果要約レポートを確認します。

- スキャンが完了したら、ユーティリティにより保存先フォルダーに summary.html ファイルが生成されます。[レポートを開く] をクリックすると、ブラウザで要約が閲覧できます。



- スキャンされた Bot のそれぞれについても、Bot の依存関係や変数、コマンドなどの詳細を記した XML レポートが生成されます。これらのレポートは、同じ保存先フォルダー内の Migratable_Bots と Non_Migratable_Bots という 2 つのサブフォルダーの中に配置されます。

分析に基づいた移行時期の決定

Bot スキャナーの要約レポートには、適切な移行時期を評価し決定するのに役立つ情報も含まれています。

1. Bot スキャナーの要約の評価
2. 移行開始時期の決定

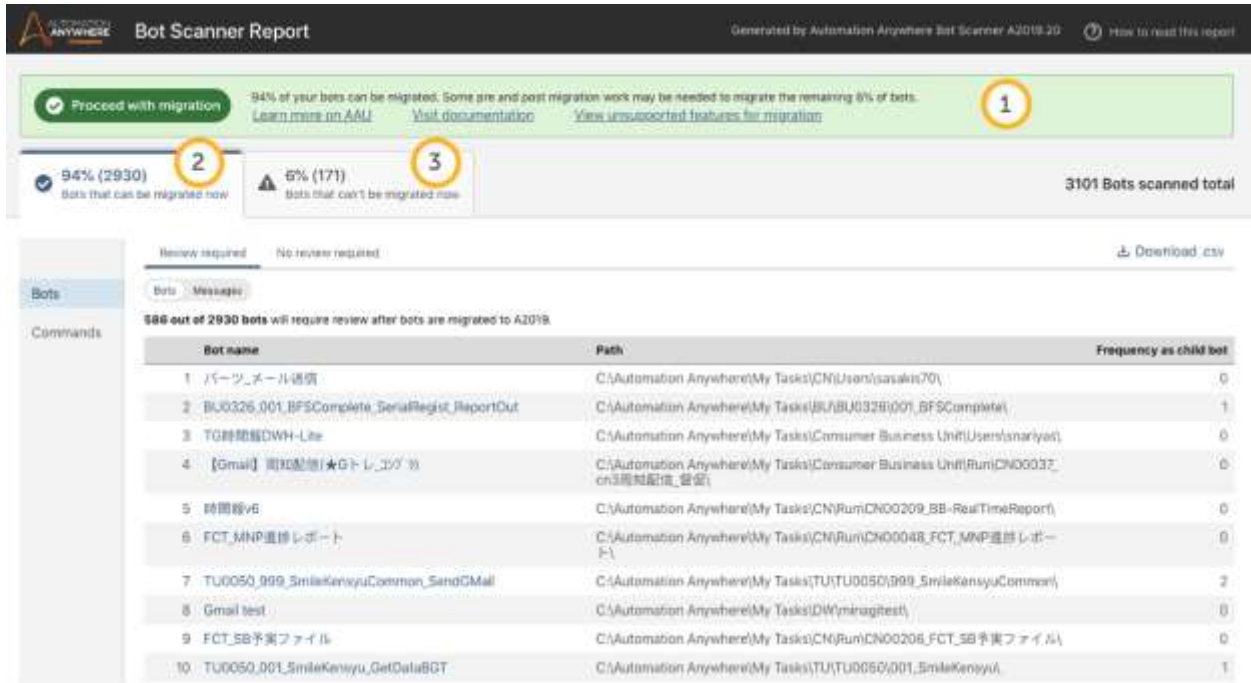
[www.i](#) 推奨リソース

Bot スキャナーについてのチュートリアル動画: 詳細な Bot スキャナー レポートの読み方説明が含まれた、ステップバイステップの Bot スキャナーの動画は、[こちら](#)からご利用になれます。

Bot スキャナー要約レポートに関するドキュメント: ドキュメント ポータルでは、[こちら](#)で XML ファイルを含む、レポートの読み方や分析方法についての詳細も提供しています。

Bot スキャナーの要約レポートの評価

Bot スキャナーの要約レポートには、主に 3 つのインタラクティブな評価セクションがあります。



- 簡単な概要と自動生成の推奨事項
 - リポジトリにある利用可能なスキャン済み Bot 数
 - 現時点で移行できる完全な Bot の割合
 - 以下の基準に基づいた、移行に進むべきかどうかの推奨
 - 「Proceed with migration」 - Bot とコマンドのほとんどが今すぐ移行可能です。
 - 「Wait to migrate」 - 移行可能な完全な Bot の割合を下げる、まだサポートされていないコマンドがあります。
 - 備考: 推奨は割合ベースです。移行の決断は、Bot スキャナー レポートの詳細を評価してから行うようにしてください。
- 移行準備が完了している Bot と移行後に必要なアクション
 - 一番左のボックスには、Automation 360 に移行することができる Bot の数と割合が表示されます。このボックスの下には、移行可能なこれらの Bot に追加的なレビューが必要ないかを特定する 2 つのタブがあります。[No review required] (レビュー不要) のタブをクリックすると、レビューが全く不要で Automation 360 に移行することのできる Bot を閲覧できます。リストにある個々の Bot をクリックすると、それぞれの XML レポートを見ることができます。
 - [Review required] (要レビュー) のタブをクリックすると、移行後に追加的なレビューやアクションが必要となるかもしれない Bot を見ることができます。
 - Bot に追加的なレビューが必要な場合は、Bot 名をクリックして何をやる必要があるか確認することができます。移行がサポートされていない機能を必ず確認してください。サポートされている Bot のリストを CSV ファイルとしてダウンロードして、所属部署の従業員などと共有することができる点にご留意ください。サポートされている Bot のリストは、特定の Bot が子 Bot として利用される頻度も特定します。この数字は、いくつの親 Bot がその Bot を子 Bot として使用しているかを表します。

3. 移行準備が完了していない Bot とその理由

- 左から 2 つめのボックスには、Automation 360 に移行できない Bot の数と割合が表示されます。このボックスをクリックすると、Bot 名、パス、エラーメッセージまたはエラーメッセージの閲覧方法とその Bot が子 Bot として使われる頻度に関する情報を示すリストが現れます。移行できない子 Bot が 1 つでもあると親 Bot を移行することができないため、この情報は重要です。
- それぞれの Bot をクリックすると、以下に示すような、どのコマンドが特定の Bot の移行をブロックしているかについての詳細などの Bot 移行に関する具体的な詳細やエラーメッセージを見ることができます。
- Bot 移行の詳細を含む XML ファイルをダウンロードすることで、オフラインでの閲覧や他の人との共有ができる点にご留意ください。エラー詳細の閲覧が終了したら、[閉じる] をクリックして Bot リストに戻ります。

移行時期の決定

移行準備が完了している Bot に対して、Bot スキャナーが 90% 以上の結果を出したときに、移行に進むよう推奨しています。ただし、割合は Bot 数やサポートされていないコマンド数に左右されます。たとえば 10 ある Bot のうち、2 つの Bot がサポートされていないコマンドを 1 つ持っている場合は、この特定の Bot のタイプや重要度によっては移行に進んでも問題ないことがあります。どのコマンドがまだサポートされていないのか、どのリリースで利用可能になるのかを把握することが重要です。まだサポートされていないコマンドがある状態または「移行開始」の推奨がない状態で移行に進むことを決断された場合には、お使いの Bot を Automation 360 で機能させるために変換や再構築などの多大な手作業を必要とすることがある点にご留意ください。

レポートの詳細を評価した結果、しきい値の 90% に達していなくても移行に進む決断することはできますが、できる限り推奨事項に従われることをお勧めします。

ステップ 2: 移行計画と準備



独自の導入モデルの選択

Automation Anywhere Automation 360 プラットフォームは、クラウドとオンプレミスの両方をサポートする、単一コードベースによるクラウドネイティブなアーキテクチャで開発されました。コンポーネントの体験はすべて、Automation Anywhere Cloud 上でも、物理的なサーバー、プライベートクラウド、パブリッククラウドなどのオンプレミスの自社インフラストラクチャでも同じです。Automation Anywhere Cloud 上でアップグレードするか、自社のインフラストラクチャに導入するか選択することができます。

Automation 360 を Automation Anywhere Cloud で導入してもオンプレミスを選択しても、プラットフォームの核となる RPA コンポーネントには次のものが含まれます。

- Control Room: 設定、ID およびアクセス管理、Bot ライフサイクル管理、Bot 実行管理、ログとモニタリング、アップグレード管理、拡張機能。
- Bot Creator: Bot の構築・編集・テストを行う機能。いったん Bot が開発されると、テストから本番までの Bot ライフサイクルは Control Room を通して調整されます。
- Bot Runner: 割り当てられたデバイスで Bot を実行するためのライセンス。Bot Runner は Attended (クライアントで実行を指示) と Unattended (サーバーから実行を指示) に分類され、Control Room で管理されます。
- Bot エージェント: Bot Creator や Bot Runner が Control Room とコミュニケーションを取りながら Bot を構築したり実行したりするのに使われる、デバイス上にインストールされたソフトウェアのシンクライアントのことで。

Automation Anywhere Cloud 上で作動させる Automation 360 に向けた準備

Automation Anywhere Cloud の導入を決めた場合、Control Room 用に物理的に追加的なサーバーインフラストラクチャを設立する必要はありません。アップグレードが完了したら、組織全体で自動アップデートのメリットを受けることができ、クラウドから簡単に拡張することができるようになります。Automation Anywhere Cloud 上で Automation 360 の利用を開始するにあたり、Automation 360 を作動させるための以下のシステム要件と互換性要件をご確認ください。クラウド移行ユーティリティは Automation Anywhere Cloud のみで利用でき、Enterprise 11 のデータをクラウドに素早くアップロードできるため、移行処理が迅速に行えます。

- **デバイス要件:** Automation Anywhere Enterprise で Bot の構築・実行がサポートされている、デバイスのハードウェア仕様、オペレーティング システム バージョン、ブラウザのタイプを再確認します。
- **Bot エージェントの互換性要件:** ユーザーが Bot を構築したり、実行したりできるよう、登録デバイスに Bot エージェントをインストールしておく必要があります。デバイス要件をご参照ください。

オンプレミス (自社インフラストラクチャ上) で作動させる Automation 360 に向けた準備

自社独自のインフラストラクチャに Automation 360 をインストールし、メンテナンスを行います。アップグレードが完了したら、簡単にダウンロードやインストールができる新規リリース ビルドの定期的な更新を受けることができます。Automation 360 オンプレミス版の準備に役立つ、システムとセットアップに関する詳細は以下の通りです。

- **システム要件:** サーバー、データベース、ポート、プロトコルなどのハードウェアやデータ センター要件を再確認します。
- **Bot エージェントの互換性要件:** ユーザーが Bot を構築したり、実行したりできるよう、登録デバイスに Bot エージェントをインストールしておく必要があります。デバイス要件をご参照ください。

自社のクラウドに Automation 360 をインストールする場合の詳しい手順は、以下からご覧いただけます。

- [Amazon Web Services \(AWS\) への Automation 360 Control Room のインストール](#)
- [Microsoft Azure への Automation 360 Control Room のインストール](#)

Automation 360 移行ライセンスの取得

移行の提供は無料です。クラウドの場合でもオンプレミスの場合でも、Automation 360 環境への移行を始めるには、移行ライセンスの交付を依頼します。

移行ライセンス交付の条件と期間

- 移行ライセンスは 90 日間有効です。
- 移行完了までに予想以上の時間がかかる場合は、カスタマー サクセス マネージャーまたはアカウント担当者に連絡してライセンスの延長についてお問い合わせください。
- Automation 360 の移行ライセンスは過渡的なもので、移行期間中はお使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 のライセンスとオーバーラップします。アップグレードが完了したら、Automation 360 の製品とライセンスが現在のご契約に 1 対 1 で相当するものに移管されます。これは、自動化ニーズや更新時期を見直したり、アップデートの必要なライセンスを特定するのにも良い機会です。



備考: まず Bot スキャナーを実行して移行時期を決定

- Bot スキャナーを実行し、導入モデルの前提要件の再確認が完了して初めて、移行ライセンスの交付を依頼するようお勧めします。

移行ライセンス交付の依頼

移行開始の準備ができたなら、アカウント担当者に連絡して、Bot スキャナー レポートを提出し、Automation Anywhere Cloud 導入用のライセンスかオンプレミス導入用のライセンスのどちらを依頼するのかを明確にする必要があります。

- 一般条件契約: クラウドの場合でもオンプレミスの場合でも、Automation 360 の利用を開始するには、製品内のユーザー規約に同意する必要があります。
- クラウド オートメーション 契約: Automation 360 クラウド版に移行する場合、オートメーション・エニウェアがお客様のデータをホスティングするため、クラウドオートメーション契約への同意も必要になります。

ライセンスの有効化

- Automation 360 クラウド版の場合: 移行ライセンスを含む移行コードが提供されます。提供されたコードをクラウド移行ユーティリティにコピー・貼り付けし、クラウド移行ユーティリティを実行してライセンスを有効化します。
- Automation 360 オンプレミス版の場合: Automation 360 のインストールが完了したら、Automation 360 の Control Room の起動時にライセンス ファイルをアップロードします。

任意の導入方法での [Automation 360 のインストール](#)に関する詳細をご覧ください。

環境の準備と Automation 360 Control Room のセットアップ

移行ライセンスと Automation 360 の環境詳細を受け取ったら、Automation 360 の Control Room をセットアップしてお使いの Enterprise 10 もしくは Enterprise 11 のデータを移行し、Bot の移行準備を行うことができます。Bot を移行する前に、[移行の前提条件](#)を満たす必要があります。



推奨リソース

Enterprise 11 の Enterprise 2019 への移行に関するドキュメント: Enterprise 11 の Automation 360 オンプレミス版への移行に関するステップバイステップの技術的な詳細は、[こちら](#)からご覧になれます。

Automation Anywhere University: 上記の手順についてのステップバイステップのガイドは、[こちら](#)の「Enterprise 11 の Automation 360 オンプレミス版への移行」というオンラインコースからご覧になれます。

Automation 360 の利用開始方法: Automation 360 Control Room のクイック スタート動画ツアーは、[こちら](#)からご覧になれます。

Automation 360 Control Room でのロールの追加方法: Automation 360 でロールを追加する方法についてのクイックスタート動画は、[こちら](#)からご覧になれます。

追加的な環境考慮事項

クラウド、オンプレミスのどちらで導入する場合でも、現在の自動化ニーズに基づいて自社のインフラストラクチャを再確認することで、移行後の推移をスムーズに進める準備につながります。

クラウド導入の場合は、Automation 360 のインスタンスをセットアップするためのサーバーインフラストラクチャ要件はありません。主な考慮事項は、デバイスが移行処理中または完全にアップグレードされた本番環境で Bot を実行できることです。

オンプレミス導入の場合は、Automation 360 への移行セットアップのために、お使いの Enterprise 10 もしくは 11 のインフラストラクチャと同様に設定された別のインフラストラクチャを確保することを検討してください。Enterprise 10 もしくは 11 の Bot と Automation 360 の Bot の両者が同時に実行されたり、同じリソースを利用したりしない限り、リソースによっては、Enterprise 10 もしくは 11 に使用されているインフラストラクチャで十分移行処理を進められることがあります。



備考: 開発 (DEV) 環境で移行を実行

- 選択された導入オプションにかかわらず、最初の Automation 360 インスタンスは開発環境として設定されることをお勧めします。
- ベスト プラクティスとして、Bot ライフサイクル管理のために次の 3 つの独立した環境を確保することをお勧めします: 開発 (DEV)、テストまたはユーザー受入テスト (UAT)、本番 (PROD)
- 移行処理中に開発環境を設定するには、二重のメリットがあります。1) 移行されたばかりの Enterprise 10 もしくは 11 の Bot を持ち込んでテストするためのプラットフォームとなり、自動化がプログラム通りに実行されることを確認できます。2) 自社の開発者が、変換 Bot のテストと並行して、初期段階から新規の自動化の構築に至るまで、新しい Automation 360 環境にアクセスすることができます。

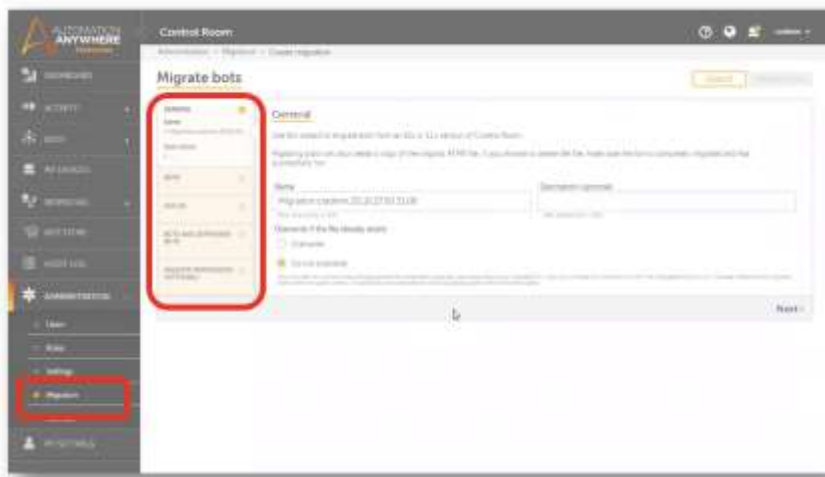
ステップ 3: Bot の移行



このガイドで説明してきたアップグレードプロセスのステップ 1 (準備状況の確認) と ステップ 2 (計画と準備) が無事に完了すれば、Bot の移行は簡単な手順です。

Bot 移行ウィザードで選択した Bot の移行

Bot 移行ウィザードは Automation 360 の Control Room に統合されており、移行の役割や権限が割り当てられているユーザーは管理タブから利用することができます。このツールは、お使いの Bot を Enterprise 10 もしくは 11 のフォーマット (.atmx) から Automation 360 との互換型フォーマット (.bot) に変換する処理を最初から最後までご案内します。クリック数回で、選択された Bot とそれに依存する Bot が変換プロセスに入り、Automation 360 で利用できるようになります。まずは数個の Bot から始め、それらが移行後に適切に機能することを確認してから、移行の一括処理に移ることをお勧めします。



[www.i](#) 推奨リソース

Bot 移行のチュートリアル動画: Bot 移行ウィザードの利用方法についてのステップバイステップの詳細は、[こちら](#)の動画からご覧いただけます。

移行セッションに必要な手順

1. **前提条件**が満たされていることを確認します。
2. 移行セッションを開始するには、Automation 360 の Control Room にある管理タブで [移行] を選択します。一度に実行できる移行セッションは 1 つだけですが、1 回のセッションにおいて数個またはすべての Bot を選択することができます。
3. 移行セッションに名前を付けます。
4. Automation 360 で使用するために変換して移行したい Bot を選択します。Enterprise 10 もしくは 11 からの移行か、また Automation 360 の Automation Anywhere Cloud 上でのアップグレードを選択したか、自社インフラストラクチャ上のオンプレミスを選択したかによって、これらはステップ 2 で Automation 360 のリポジトリにインポート、もしくはコピーされています。
5. 移行処理を実行する移行デバイスを選択します。複数のデバイスを選択すると、作業負荷が分散されて効率的に処理が実行されます。
6. 移行の選択をした Bot とその依存 Bot を再確認します。
7. ユーザーと移行セッションで選択したデバイスに適切な権限があるかを確認します (任意の手順)。
8. 移行処理を実行します。
9. 「すべての移行」ページで進捗状況を確認します。

備考: Bot スキャナー レポートに基づいた 移行 Bot の選択

- Bot スキャナー ツールとレポートは Bot 移行ウィザードとは全く繋がっていませんが、レポートを参照して移行準備が完了している Bot を選択することで、移行処理後にサポートされていない Bot を修復したり再構築したりするための時間と手間を省くことができます。
- 大量の移行を決定する前に、まずは数個の Bot を選択して移行し、それらの移行済み Bot の機能性をテストすることをお勧めします。

IQ Bot の移行

Enterprise 10 もしくは 11 に構築された Bot とともに、IQ Bot のラーニングインスタンスも移行されたいことと思います。現在の自動化設定に IQ Bot 移行を開始する前に、Automation 360 環境がインストールされ、使用できるように設定されていることを確認します。IQ Bot アーティファクトの移行には、IQ Bot を利用するために構築された Bot の移行に加え、データ抽出のために訓練された IQ Bot ラーニング インスタンスも含まれます。通常の IQ Bot サーバーのアップグレードとラーニング インスタンスの手続きで、新しいシステムに情報を移動することができます。

Bot Insight の移行

Bot Insight のデータとダッシュボードの移行は、移行プロセス全体の一環として行われます。(お使いの Enterprise 11 の Control Room データベースとは別の) Bot Insight データベースのクローンを作成し、当社提供のユーティリティを使用して (ウィジェットやレイアウトなどの) ダッシュボードのメタデータを抽出するという手順を踏みます。Bot Insight の Automation 360 クラウド版への移行は現在サポートされていません。

大まかな手順は以下のようになります。

1. Enterprise 11 の Control Room データベースのクローニング完了後、Enterprise 11 の Bot Insight データベースのクローンを作成します。
2. 当社提供の Bot Insight 移行前ユーティリティを使用して、ダッシュボードのメタデータとダッシュボードのプロフィールを zip ファイルにエクスポートします。
3. Automation 360 サーバーに必要なフォルダー構成を作成し、(ステップ 2 で作成された) Bot Insight zip ファイルを適切なフォルダーに配置します。
4. クローニングされた Enterprise 11 の Control Room と Bot Insight のデータベースを使用し、サーバーに Automation 360 をインストールします。
5. Automation 360 の Bot 移行ウィザードで Bot の移行処理を開始します。これにより、Bot と Bot Insight のダッシュボードが移行されます。詳細は、Automation Anywhere University の [Bot Insight の移行](#) に関するコースをご覧ください。

移行済み Bot のテストと検証

移行が完了しているか、また移行済み Bot が Automation 360 環境でうまく実行できるかを検証することは重要です。Bot が .bot フォーマットに変換されていても、正常に実行することを妨げるようなエラーが含まれるケースもあります。このテストと検証のプロセスにより、移行処理中に起こりうるあらゆるエラーが特定され、修正措置を講じる機会が得られます。

移行後、システムが移行済み Bot を Automation 360 の Control Room にあるパブリック リポジトリ (相当する .atmx ファイルが含まれるフォルダーと同一のもの) にアップロードします。「すべての移行」ページで、移行済み Bot の現在の状態が確認できます。このページには、移行済み Bot とそれらの依存関係に関連する、サポートされていないすべてのコマンドや属性などの便利な情報を閲覧することもできます。

推奨リソース

Bot 移行のチュートリアル動画: 移行済み Bot のテストと検証の方法についての詳細は、[こちらのステップバイステップ Bot 移行ウィザード動画](#)からご覧になれます。

移行レポートの確認: Bot 移行レポートへのアクセスと再確認方法についてのドキュメントは、[こちら](#)からご覧になれます。

オフラインでの移行分析: Bot 移行レポートを CSV ファイルとしてエクスポートすることができます。詳細は[こちら](#)よりご覧ください。

Bot のアップデート

移行レポートやテストの段階で Bot に何らかの調整が必要な場合は、その Bot をパブリック フォルダーからプライベート フォルダーにチェックアウトすることで編集が可能です。[移行アシスタント](#)で移行した Bot の変更点を確認できます。移行アシスタントは必要な変更を案内すると同時に、新しい Automation 360 の機能を活用できる機会を検出します。

こうすることで、この Bot は Bot ワークベンチ (別名 Bot エディター) で編集できるようになります。Bot を修正してプロセスの手順をテストすると同じように、Bot ワークベンチから直接 Bot を実行することができます。これらはすべて、開発 (DEV) 環境で行われます。Bot が事前に設定した合格基準をクリアしたら、その Bot をユーザー受入テスト (UAT) 環境に移動し

て、より大きなデータセットを備えた本番に似たシステムでテストを行います。Bot が UAT 要件をクリアして初めて、本番 (PROD) 環境に導入します。このプロセスは、典型的な業界標準のソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) のベストプラクティスの一端です。

推奨リソース

Bot ワークベンチに関するドキュメント: Automation 360 の Bot ワークベンチ (Bot エディター) の利用方法についてのドキュメントは、[こちら](#)からご覧になれます。

Bot ライフサイクル管理

修正が必要な Bot をテストし、うまく実行することができたら、以前に Enterprise 10 もしくは 11 で実装した時と同様の DEV/UAT/PROD Bot ライフサイクル運用ワークフローを適用することができます。

推奨リソース

Bot ライフサイクル管理に関するドキュメント: Bot 開発ライフサイクルのベストプラクティスとしての、Bot を一つの環境から別の環境へ移動させる方法についてのドキュメントは、[こちら](#)からご覧になれます。

Bot の変換・検証・移行中に予想されること

アップグレードと移行処理は、滞りなく、シームレスに実行されるようデザインされています。それぞれの移行の道のりは異なりますが、日々の自動化プロセスと Bot は通常通り実行し続けるべきです。

移行にかかる時間

移行時間は、お客様の所有される Bot 数、お客様のプロセス、Bot Runner と移行を実行するマシンの数によって異なります。迅速に移行できる場合もあれば、特定の内部プロセスや要件のために時間のかかる場合もあります。

自社のペースで移行

移行ツールで、何をいつ移行するかコントロールすることができます。一度にすべての Bot を移行することを選択することも、少しずつ Bot 移行するアプローチを取ることも可能です。Enterprise 10 もしくは 11 から Automation 360 への推移中は、移行が完了するまでの間、引き続き旧プラットフォームから通常通り Bot を実行することができます。



備考: いったん移行が完了したら、新規 Bot は Automation 360 上でのみ構築してください。

- 完全にアップグレードを終え、すべての Bot を Automation 360 に移行したら、あらゆる新規 Bot やアップデートはすべて Automation 360 上で実施する必要があります。これにより、Bot の管理がしやすくなり、組織の推移がスムーズになります。

ゼロ ダウンタイム

Automation 360 への移行中、Enterprise 10 もしくは 11 上でスケジュールされた Bot や予定された通りに Bot を実行する能力が、移行によって影響を受けることはありません。自動化ニーズに対してインフラストラクチャ要件が満たされている限り、通常の自動化活動が停止することはありません。



Automation 360 への推移

移行処理自体は比較的短期間で完了するものの、導入したばかりのプラットフォームに完全に推移するには少し時間がかかるものと思われます。

Enterprise 10 もしくは 11 と Automation 360 の併用

推移期間中、移行済み Bot が Automation 360 上でテストされ、うまく実行されるようになるまでは、Enterprise 10 もしくは 11 上で自動化を実行し続けることができます。

Enterprise 10 または 11 アカウントの閉鎖

旧プラットフォームと Automation 360 を並行して実行できる推移期間は 90 日間です。さらに時間が必要なお客様は、延長を依頼することができます。旧バージョンのライセンスの閉鎖には猶予期間も設けており、アップグレードがうまく完了し、Automation 360 の Bot と新体験が予想通りのものであることが確認できるようにしています。推移期間についてご不明な点がございましたら、オートメーション・エニウェアのアカウント担当者に詳細をお問い合わせください。

Automation 360 のトレーニング

Automation Anywhere University の初心者から熟練の開発者までを対象とした、Automation 360 コースの実践的な学習で、Automation 360 の利用方法を素早く習得できます。インストラクター指導型のトレーニングという選択肢もご利用になれます。

リソース

Automation 360 への道のりのサポートとして、以下のリソースをご利用ください。

オートメーション・エニウェアのドキュメント ポータル

必要なすべての技術的な情報や使用方法は、ドキュメント ポータルでご覧いただけます。

移行リソース

動画、プロジェクト テンプレート、概要など、移行に関連したいくつものリソースが 1 ヶ所でご利用いただけます。

Automation Anywhere University

Automation Anywhere University は、自分のペースで進められるトレーニングやインストラクター主導のトレーニングを通して、あらゆるスキル レベルに合わせた総合的なコースと学習の機会を提供します。

A-People コミュニティとサポート ポータル

何千もの RPA 実務担当者たちとつながって、経験を共有できます。このサイトには、RPA 実務担当者フォーラム、膨大なナレッジ ベース、技術的サポートのためのリソースが含まれています。

オートメーション・エニウェア Web サイト

顧客事例、ブログ、動画、最新の RPA ニュースなどの有益な追加的リソースを含む、当社製品や会社情報についてのアップデートや詳細は、当社の企業 Web サイトからご覧いただけます。